

年 組 名前：

風林火山

「サメの歯を探しに行く。おまえも行くか」。日頃よく顔を合わせていた取材相手に誘われ、西桂町の三ツ峠に向かった。サメといっても生きたものではなく化石。20年以上前のことだ▼段差がある場所で土を集め、ふるいにかけて目をこらす。おおよそ半日。小指の爪ほどの大きさで、焦げ茶色をした三角形の「化石」を一つ見つけた。お守り代わりにはしばらく車に飾った▼2人とも専門家ではないので、本物だったかは確認のしようがない。ただ過去には三ツ峠でクジラの頭骨が見つかり、富士川沿いでは貝などの化石が混じった砂岩も発見されている。県土の約8割が山林という山梨が、海から生まれた不思議さを考える機会になった▼一方、現代に目を転じれば、海に沈むことを懸念する国々がある。オセアニアの島国ツバルがその一つだ。海抜は平均1〜2メートル。温暖化などに伴う海面上昇で国土を浸食される危機感を訴えて久しい▼国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は今年、今世紀末の気温上昇幅が目安の1.5度を超える恐れが強まっていると報告した。7年後の2030年までに二酸化炭素排出の半減を求め、今後10年の対策が「数千年にわたり影響を与える」と警告する▼海から生まれた陸地が再び海に戻る。そんな事態を避けるには、海なし県での日常生活も無縁ではない。きょう7月17日は海の日。目には見えない海とのつながりを思う。(紀)

(2023年7月17日付 山梨日日新聞1面)

問1

「風林火山」の筆者は、サメの歯(化石)を探しいった場所では、過去に何が発見されましたか。

.....

問2

オセアニアの島国ツバルは、海に沈むことを懸念しています。その原因を教えてください。

.....

問3

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、2030年までに、何をしなければいけないと、求めていますか。

.....

問4

「海から生まれた陸地が再び海に戻る」事態を避けるために、あなたは、何が必要と考えますか。

.....

.....

.....